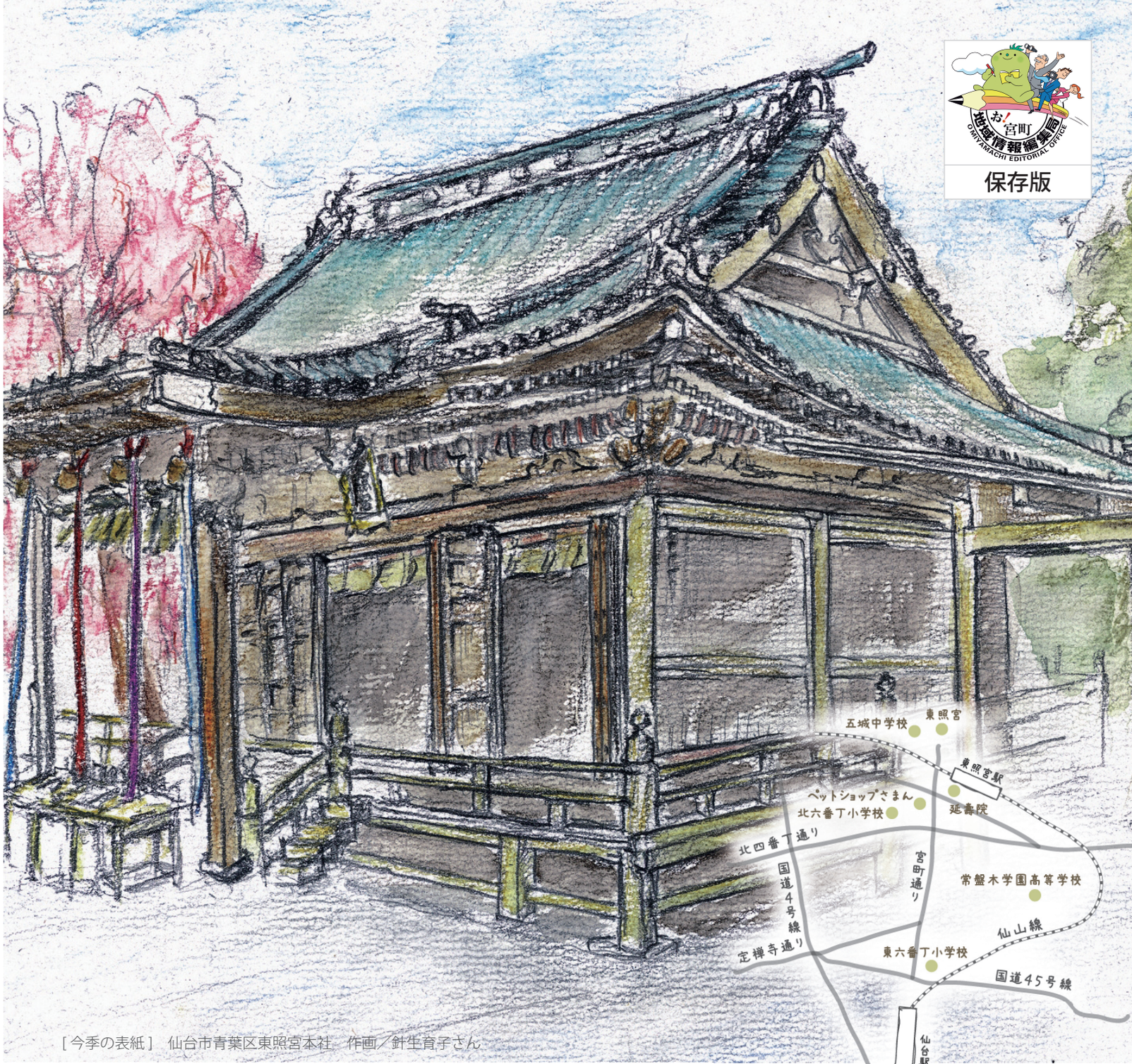

［今季の表紙］ 仙台市青葉区東照宮本社　作画／針生育子さん

保存版

038press

地域密着の情報共有フリーペーパー

（おみや）

［おみやプレス］
創刊準備号 vol.00

今季の特集

音楽とふれあう♪お宮町！

東六小の桜と音楽を愛でる会の紹介

2011 年 3 月 1 日 お！宮町地域情報編集局　発行

東六小学校
「桜と音楽を愛でる会」……2
東照宮春まつり開催……3
宮町の歴史　①……4
地域と学校のページ……5
038突撃隊が行く！……6
宮町今昔　①　延壽院……7
038プレス創刊にあたって…8
編集後記……8

［編集］ お！宮町地域情報編集局
TEL:022-225-7211㈹　E-mail:ohmiyamachi@gmail.com
〒 980-8701
仙台市青葉区役所 まちづくり推進課内

お！宮町地域情報編集局ホームページ
［2011 年公開予定！］
宮町商店街ホームページ
［2011 年 6 月公開予定！］

特集

地域のつながりを創りだす

東六小学校の桜と音楽を愛でる会

東六小学校の校庭に咲くエドヒガンザクラ（写真提供／國井周一）

満開の桜の下で音楽を堪能

4月16日（土）に、東六番丁小学校の校庭で「東六小の桜と音楽を愛でる会」というイベントが開催されます。これは、東六地区連合町内会が主催で行うイベントで、今年で6回目を迎えます。「エドヒガンザクラ」が満開に咲き誇るすぐ下で、桜のすばらしさを観賞しながら生のバンド演奏を聴くことができるという、目と耳で楽しめるイベントです。毎年桜が満開になるこの時期に開催しており、好評となっています。

東六小のシンボル エドヒガンザクラ

私たちの地域にある東六番丁小学校の校庭には、樹齢400余年、高さ約8m、幹回り約6mもある「エドヒガンザクラ」というすばらしい桜の木があります。この桜は、承応3（1654）年、二代藩主の伊達忠宗公が、東照宮を建立する以前からこの場所に存在したと言われているほど、大変歴史のある桜です。枝ぶりのすばらしさや幹の太さが、静かにその樹齢を物語っています。近くで見ると思わず言葉を失ってしまうほど、その姿は圧巻で、見る人を魅了します。

宮城県でも群を抜くほど大きく美しい桜の木ですが、その存在を知らない方も多いのではないでしょうか。それもそのはずです。校庭の奥にあるため目に留まりにくく、また名所として紹介されたことがないため、「知る人ぞ知る」というすばらしい名桜なのです。安全対策のため、普段一般の方は校庭に入れませんが、思う存分このすばらしいエドヒガンザクラを観賞できるのが、この「東六小の桜と音楽を愛でる会」というイベントなのです。

例年大盛況のイベント

昨年は、迫力ある和太鼓の演奏でイベントがスタートしました。そして、仙台市立五城中学校の吹奏楽部による『さくらさくら』の合唱。とてもすばらしい歌声やハーモニーが響き渡りました。その後、東六番丁小学校のスクールバンドによる演奏や、常盤木学園の吹奏楽部による演奏なども行われました。東六番丁小学校と常盤木学園高等学校のスクールバンドが組んだここでしか見ることのできない演奏も行われるなど、とても盛り上がりました。

一般の方の参加もあります。地元で活躍しているグループの演奏や、学校の先生方で組んでいるバンドの演奏など、様々な音楽を聴くことができました。演奏する音楽は誰でも知っている曲なので、どの世代の方でも楽しめるようになっています。

五感で楽しめるイベント

毎年すばらしい演奏を披露してくれる東六番丁小学校のスクールバンドはとても有名です。現在は約30名のメンバーが活動しています。数多くのコンクールで受賞しており、東北大会への出場も果たしています。朝・夕方・土曜日に自主練習を行っており、数多くの受賞は日々の練習のたまものです。このすばらしいスクールバンドの演奏が目の前で聴けるのも、このイベントならではのことです。

また、PTAや宮町界隈の飲食店による出店も多数あります。出店店舗は当日のお楽しみです。

写真上 :2010 年に開催された桜と音楽を愛でる会。当日は雨のため体育館で行われた

写真下 : エドヒガンザクラの下でブラスバンドによる演奏 (写真提供 : 國井周一)

このように、桜を目で見る、音楽を耳で聴く、食べ物を口で味わうという、五感で楽しめるイベントです。

交流の場 そして地域の活性化へ

このイベントには、桜と音楽を楽しんでもらうということの他に、人々の交流の場にすることで、地域を活性化させたいという目的も込められています。同じ地域に住んではいるものの、世代や仕事の関係上、普段接する機会の少ない人がたくさんいます。このような人々が会って話せる場を作ることで、お互いの顔が見え、話ができ、ふれあうことができます。一度顔見知りになると、イベント以外の場で会った際にもお互いあいさつし合う関係を築くことができるので、明るい地域が作られます。地域が明るくなるということは、活性化にもつながります。そして結果的には、安全・安心で、みんなが住みやすい地域へと変化していきます。このような地域にするということが、もうひとつの目的です。

入場は自由・無料ですので、どなたでもご覧になれます。家族やカップル、友達などを誘って、気軽にご参加ください。もちろん、地域外にお住まいの方も大歓迎です。

（安藤茉美）

イベント詳細

開催日　：2011 年 4 月 16 日（土）
開催時間：11 時 ~ 15 時 30 分
開催場所：
仙台市東六番丁小学校
校庭　エドヒガンザクラ前
※雨天決行 (雨天時は体育館にて開催) ＰＴＡや宮町界隈の飲食店による出店多数
主催　　：東六地区連合町内会

東照宮の春祭りが開催されます

仙台に春を告げる祭りとして大勢の市民が参拝に訪れる東照宮の春祭りと例祭が 4 月の第 3 土曜日、日曜日で、今年は 16 日と 17 日に行われます。

桜が咲き誇る境内には多くの露店も立ち並び、両日とも東照宮神楽の奉納や余興の催しが行われ、例年お花見を兼ねた大勢の人で賑わいます。春祭りの一番の見どころは、神楽堂で奉納される東照宮神楽です。これは仙台市無形文化財にも登録されています。

神楽のメンバーは小学生から社会人まで年齢層は幅広く、祭りの 1 ヵ月前から練習を始めます。東照宮神楽は演目が 10 種類あり、当日はその中から 1 日 6 幕行われます。

もうひとつの楽しみは、カラオケ大会です。美しい桜の前で気持ちよく歌えることもあり、毎年楽しみにしている人も多く、誰でも参加できるイベントです。

東照宮には神楽堂のほかにも本堂をはじめ唐門、透塀、随身門、石鳥居の 5 棟が国指定の重要文化財、手水舎が県指定有形文化財、石段が仙台市登録有形文化財に指定されており、祭りや催しがある日以外にもぜひ訪れてみたいところです。

（木村くみ）

東照宮の例祭 (写真提供 : 宮町商店街振興組合)

お宮町界隈のこころとかたち

ここ宮町は権現町ともいわれ、門前御町通りとして承応三（１６５４）年、東照宮造営で新しく町割りされ発展してきました。北五・六番丁が拡張された城下北東部第二次拡張期のときで、小田原村分であった百姓たちがそのまま住んで町屋敷を形成し、門前町としてだけでなく城下北西部町方の要石として重視されてきました。

『仙台鹿の子』は「東照権現大下馬天和元（１６８１）年、十月、町屋敷いつる又丁切下へ下かり侍屋敷町屋敷となる」「津田玄蕃大屋敷四方百三四十間あり延宝六（１６７８）年、四月わりくづし小屋敷数軒いづる元禄八（１６９５）年まで十八年なり権現丁の西裏北三番丁との間なり中に東西南北と丁通る新通りといふ」「東照権現門前町百二軒」とあり、また一軒につき五百文ずつの田地付無年貢なりともいわれ、町家を盛んにするための配慮もなされたようです。

寛文絵図（１６６１～７３）で町の東西に見られた亘理伯耆、山本勘兵衛、氏家勘左衛門らの大屋敷や南端西北の藩杉苗畑も明暦年間（１６５５～５８）には小屋敷になっています。

この宮町筋は城下北東端の侍大屋敷で占められ、その東裏側は穀苗園や果樹林もある小田原田圃と称される田園地帯でありました。残された絵図をみると士宅が廃された後に門前商人が混在していった様子がわかります。

時代ごとの町勢を見てみましょう。北四番丁を境に北三町は上御宮町、南三町を下御宮町に分かたれ、町方二十四町に挙げられ、十九・二十番目に記載されています。

享保八（１７２３）年『仙台萩』は両町で百十軒、安永元（１７７２）年「封内風土記」は百十七軒市人七百七十九人、寛政期（１７８９～１８０１）の『城下町数　家数書上』は上宮町が百十一軒と小間六軒、下宮町が家二百十七軒のうち蔵二十八、弘化二（１８４５）年『奥陽名数』は六町百三十七軒、嘉永五（１８５２）年『切支丹宗門改人数』上・下御宮町が人頭夫々五十五・二百六十三、七十六・四百五十で軒数・住人数共に城下一、二のところにあり、まことに繁華な下町の様相を持っていたとみられます。

この地域の中格を形成した上宮町・下宮町が、新しい住居表示制度により昭和四十五年二月一日０・５４２㎢、約２、７００世帯、約９、５００人、宮町五丁目までと表示変更が実施されました。宮町、北一から六番丁、宮町東裏丁、東六番丁、車通、長丁通、錦町、新名掛丁、花京院通、新小路、小田原北一番丁通、小田原北二番丁通、杉山通、楢木下、小田原袖振丁、小田原鑓水丁、原町小田原字福沢前、原町小田原福沢の旧町の全部あるいは一部で区画されました。いま宮町に３、２４４世帯５、６０９人（平成二十二年十月現在）が住んでいます。世帯の５９・８％が老若の一人住まいです。

いま宮町の東西はＪＲ線と北仙台・外記丁線、南は45号線で大きく仕切られますが、東照宮、高松、福沢町、小田原、花京院、錦町、梅田町の各町が隣接しています。

地域の盛衰三五十年。その宮町地区の《こころ》と《かたち》を築いてきましたが、明治維新以降、特に昭和期の変貌は激しいものがあります。これからも残された、失った、また新しく生まれ育てられた地域の事柄を取り上げながら紹介していきたいと考えています。

仙台郷土研究会　副会長
お宮町歴史顧問／伊勢民夫

①寛文絵図1664年頃（出典：仙台城下絵図宮城県図書館蔵）

②宝暦絵図1760年頃（出典：仙台城下絵図（財）斎藤報恩会蔵）

③現在

地域と学校のかかわりを増やすことが、社会で子どもを育てる環境づくりにつながる

東六小学校の一年生へ朝の読み聞かせ

学校の応援団「学校支援地域本部」

東六・北六の両小学校には、学校と地域をつなぎ子どもたちの学びを豊かにする地域による学校応援団「学校支援地域本部」が設置されています。これまでも両校では地域の方々から授業に対し様々な協力をいただいてきました。学校支援地域本部の設置により、学校側と子ども達のために役立ちたいとお考えの地域人材との調整を、スーパーバイザーという民間の調整役が担うことで、子どもたちが保護者や先生以外の大人と触れ合う機会が増えています。

例えば朝の読み聞かせ活動。東六小では一昨年に一人から始まった読み聞かせが、現在では『おはなしグループさくらんぼ』としてメンバーも増え、毎週月・木曜日に活動を行い、全学年の子どもたちが本やお話の世界に惹き込まれています。北六小でも福沢市民センターの協力を得て、朗読サークルと保護者による読み聞かせが今年の1月から始まりました。

北六小6年生の9エコバックによる買い物活動は、毎年自分たちで手作りしたエコバックを持って、商店街の協力店で買い物をするともらえる「エコイン」を集める活動です。実施期間中に集めた枚数によって協賛いただいた景品と交換します。今年度は数名のお母さんがエコバック作成時にミシンサポーターとして活躍しました。

東六小では、多数の保護者や地域住民の方が先生方と連携しながら学校教育をサポートしています。新入生が学校生活に慣れるまでお手伝いをする1年生サポーターや、算数や書写・ミシン・ピアノなどの教科サポーター、校外学習などの引率サポーター、校舎内掃除をするクリーンサポーターなど内容も様々。子ども達が、地域の大人達と触れることで挨拶から会話ができる「顔の見える関係」が築かれ始めています。

五城中学校職場体験発表会

五城中学校では、平成21年度から2年生全員が職場体験を行っています。今年度は、11月9日から三日間で実施されました。12月17日の発表会には、北六小・東六小の6年生が招待され、中学1年生と一緒に先輩達の発表を聞きました。

中学生からは「マナーは必須アイテム。マナー一つで達成感は変わる」「お金のためではなく、生きるために働くことの素晴らしさを知った」「お客さんから『ありがとう』と言われること、人々の笑顔が充実感になる」と言う感想がありました。発表を聞いた小学生からは「自分を成長させることが仕事だ」「仲間と協力してやれば一人ではできなこともできるようになる」「仕事は必ず人のためになる」ことを学んだという声がありました。

（伊勢みゆき）

北六小学生がエコインで買い物

【東六地区五団体紹介】

1東六地区連合町内会
2東六地区社会福祉協議会
3東六地区体育振興会
4東六コミュニティセンター
5東六地区日赤奉仕団

東六地区では、以上の五団体が地域のために活動しています。

◇東六地区連合町内会

東六地区25町内会を統括し、活力ある住みよいまちづくりや、地域防災対策を柱とした体制づくりを主として活動しています。

◇東六地区社会福祉協議会

主な活動は「いきいきサロン」「子育てサロン」80歳以上の高齢者への「ふれあい配食」「車いすの貸し出し」など、東六地区の社会福祉の拠点となる活動をしています。

※東六地区日赤奉仕団からのお願い

毎年5月は日赤社員増強社費募集の月間となっています。皆様のあたたかい社費のご協力を宜しくお願いいたします。

『さまん』さ～ん！

「この人・この技」をテーマに取材先を検討していたら、ペットショップらしからぬ『さまん』という店名が気になった我々突撃隊。いざ突撃！

『さまん』さんのお店の印象は、外観も店内もトリミングルームも明るく綺麗、ペット好きにはたまらない雰囲気いっぱいです。挨拶もそこそこに『**店名の由来について**』聞きました。

「私の父が万二といいまして、創業にあたって姓の佐藤の佐（さ）と名前の万二を取り合わせて『さまん』としたと聞いています」

「㈲ペットショップ・さまん」代表取締役の佐藤広行さんと奥さんの佳美さん

ちなみに二代目がお母様、佐藤広行さんで三代目、平成23年4月で創業52周年を迎えるそうです。

ペットはトリミングを喜んでいる？

「答えはイエスです。犬の状態によっては、かゆいところがシャンプーでスッキリすれば喜ぶだろうし、なによりも犬が綺麗になったことを飼い主が喜ぶと、その喜んでいる姿を見てペットが喜びます。犬には人間の気持ちが伝わるのです」と力強い説明に、我々取材班は大いに納得。

絵手紙がつなぐ

店内に佐藤さん直筆の絵手紙が飾られていました。そこで『絵手紙を描かれたきっかけ』を伺いました。

「3年ほど前に、お客様とそのペットとの深い絆を感じてインスピレーションが湧き、思わず筆を執りたくなりました」との事。佐藤さんはしきりに謙遜なさっていましたが、どれも個性的で豊かな表情、見ているだけで心が癒されます。ちなみに『ペットショップ・さまん』のホームページで展開されているブログ、「ペットにまつわるワンダーワールド！」でこの絵手紙が紹介されています。

手描きの絵手紙

ペットショップ「さまん」

さらにお話を伺っていると、宮町に対する熱い思いが伝わってきます。伺えば、宮町商店街振興組合の理事長をなさっておられるとの事。

宮町をつなぐ

「宮町では、売る人と買う人が顔なじみになり、またお客さんどうしも知り合いになり、普段から商店街が人と人を繋げる役目を果たしています。山形県西川町の産直市『月山の市』が毎月２回滞りなく開催されたのも、もともと人々の温かい結びつきがあったからこそです。

「人の縁がつながっていく温かい地域」、映画『三丁目の夕日』で描かれたわずらわしいところもあるけれど、助け助けられる人間模様が残っているのが宮町の魅力です。これからも宮町に住む人々の絆がさらに深まるようにと願っています。

「宮町商店街振興組合の役員の皆様から推薦され　宮町の理事長（平成22年）に就任致しました。私は、宮町商店街が良くなるには、地域の活性化が、重要課題であり、その課題解決には、町内会や学校など多くの団体と連携をとりながら地域づくりをともに歩むことが、一番だと感じてます」。取材班がひしひしと感じたのはこの溢れ出る情熱だったのだと、またまた大納得。最後に、【心の応援歌】を伺ったところ即座に「映画ロッキーのテーマ」と力強く答えていただきました。想いを熱く語る佐藤さんとロッキーの曲はあまりにもぴったり。大いに納得したのは言うまでもありません。気づけば我々取材班は完全に佐藤さんのオーラに包まれておりました。

（佐藤正則）

【情報提供のお願い】

「０３８突撃隊」の記事に相応しい情報を提供ください。編集部「**０３８突撃隊**」まで

◆コラム◆　ペットの埋葬について

自治体によってたとえ自宅の庭であろうとも、亡くなったペットを地中に埋めることは確か違法となっている所もあります。仮に許可されている自治体であっても、自分の土地だとしても充分な深さをとって埋葬し、しっかりと管理しなければなりません。埋め方が不十分だと、日数が経つにつれて臭いが漏れたり、他の動物に掘り起こされたりして、近隣に迷惑をかけるからです。そうなると「違った意味での問題」が発生してきます。

なお、犬については、死亡後３０日以内に市町村長に死亡した旨を届出なければならない事が、狂犬病予防第四条で定められています。違反すると２０万円以下の罰金に処されます。

延壽院（えんじゅいん）

本堂内の浄円坊大権現

「いぼ取り信仰」と「韋駄天（いだてん）」

仙山線東照宮駅の近く、梅田川沿いにある延壽院。交通量の多い宮町通りのすぐそばにありながら、山門をくぐるとそこは別世界です。緑豊かな木々に包まれ静かで落ち着いた雰囲気に、思わず深呼吸したくなります。

延壽院は、万治3（1660）年、仙岳院の傍院として建立され、本尊は「阿弥陀如来」です。文政元（1818）年5月に焼失しましたが、文久元（1861）年に再建され、同時に浄円坊の木彫像一体を造り「浄円坊大権現」として祀り、現在に至ります。

浄円坊大権現は、元禄の頃の「浄円」という名前の修行僧で、韋駄天のような足を持ち、師が臨終の時に好物の最上の豆腐を所望したところ、即座に最上まで往復し豆腐を持って帰り師に喜ばれたと伝えられている人です。76歳で亡くなるまでに、羽黒まで238回も往復したと言われています。その霊験をたたえ「浄円坊大権現」と尊称して祀られています。浄円坊大権現には、足の病を治す御利益があるとされ、スリッパやわらじが奉納されています。毎年11月28日の浄円の命日には、護摩を焚き祈祷が行われます。

また、浄円が羽黒山から背負ってきたと言われる「いぼ神尊石像」は、いぼ取りの信仰を集めています。いぼを取りたい人は、「いぼ神尊石像」の前に置かれている石を自分が取りたいいぼの数だけ持ち帰り、成就したら倍の数の石を元の場所にお返しします。

延壽院の本堂と地蔵堂は仙台市指定文化財に登録されています。本堂にある108枚の絵天井は、だいぶ退色してしまっていますが、完成した当時は極彩色のすばらしい絵の数々だったと思われます。復元されたら、どんなにか美しいことでしょう。

延壽院の敷地の中には、交通事故などで命を落とした猫たちの慰霊塚もあります。

うららかな春の日にほっと一息つきたい時、ぶらりと出かけてみてはいかがですか。

☆ひとくちメモ☆

延壽院の山本峰聖ご住職は、仏師でもあります。精巧な仏像を何体も作られ、高度な知識と技術が必要とされる古い仏像の修復も手がけていらっしゃいます。また、ご住職は「一隅を照らす運動」も続けており、泉中央駅のバスプールに立ち恵まれない人々のため托鉢をしています。

おだやかな語り口で優しいお人柄のご住職です。でも、仏像制作に使う道具（カンナ）の話になったら、ご住職さんの目が少年のようにキラッと輝きました。

（佐藤康子）

延壽院正面の入り口

本堂の横には履物が…

延壽院の山本峰聖住職

学校行事予定 (2011年3月～6月)

＊なお、2月上旬での予定のため、変更になる可能性もあります。ご了承下さい

◇東六番丁小学校

3月18日（金）平成22年度卒業式
4月　8日（金）入学式
5月28日（土）運動会

◇五城中学校

3月11日（金）卒業証書授与式
3月25日（金）第1回新入生予備登校
4月　7日（木）第2回新入生予備登校・新入生用品販売
4月11日（月）入学式
4月26日（火）教育課程説明会・PTA総会・学年総会・学級懇談会
5月　9日（月）授業参観デー・部活動保護者会（五城学区民参観可能）
5月25日（水）5のつく日授業参観日（五城学区民参観可能）
6月　5日（土）休日授業参観日（五城学区民参観可能）

◇北六番丁小学校

3月18日（金）卒業式
4月　8日（金）入学式
4月23日（土）PTA総会
5月　9日（月）家庭訪問開始
5月18日（水）交通安全教室

◇常盤木学園

3月　1日(火)卒業式　常盤木学園松良記念館
4月　7日(木)入学式　常盤木学園松良記念館
5月11日(水)避難訓練　14：00頃
5月16日(月)～20日(金)　授業参観ウィーク
5月23日(月)創立記念式　常盤木学園松良記念館13:00頃

038（おみや）プレス創刊にあたって

私が連合町内会長に就任した6～7年程前は、町々の繁華街の「シャッター通り」化現象が深刻な社会問題として話題となっていました。その原因は実に多種多様でありますが、いずれにしてもこうした風潮感染を防ぎ、地域住民の生活環境を守るためには「我々連合町内会として何が出来るか」を重要課題とし、連合町内会、主要団体に加え、地域有識者、商店街振興組合、東六小、PTA等による選任者で構成する「地域コミュニティ活性化委員会」を立ち上げて検討して来ました。結論は、この地域を「安心安全で楽しく住み良いまち」にすることを目指し、一歩一歩着実に政策を進めることであります。これを受けて連町では、これまでの東六夏まつり「万燈会」と学区民運動会に加えて、東六小校庭のエドヒガンザクラを愛でながらの音楽会を開催して老若男女の憩いと交流を通じての自然的な郷土愛を育んで行く場を提供することとし、本年で六回目を迎える事になります。更に本委員会の取り組みが、平成21年度より「青葉区コミュニティ活性化モデル事業」の対象となり、専門家のアドバイスを受けながら検討した結果「心の通い合う地域づくり」を進めるには「この地域の色々な情報の発信と共有」が必要との考えから東六地区の全世帯に配布する地域情報誌を発行する事に致しました。

この情報誌は年4回発行（予定）で、『038（おみや）プレス』と名付けられ、すでに六ヵ月間の専門家による取材編集力向上の講習を受けた当地区の住民を中心とした市民記者が、編集委員会を設立して活動しております。

この度お手元にお届けした創刊準備号は、青葉区まちづくり推進課の協力のもと、編集委員の方々の情報誌発行目的を踏まえての真摯な努力、そして連町の地域発展への熱い思いが込められたものであります。ご愛読くださいますようお願い致しますと共に、東六地区の今後に是非ご期待ください。

東六地区連合町内会　会長　海老一朗

編集後記

◆以前ベガルタ仙台の応援に行った時、何度かお見かけしていた托鉢中のお坊さん。興奮して通り過ぎるベガルタゴールド達の中、静かに立つ黒い袈裟のお坊さんが印象的でした。そのお坊さんがなんと延壽院のご住職でした。不思議なご縁に感謝です。　佐藤康子

◆突撃隊は、宮町の「気になる？」にスポットを当て深く掘り下げる部隊であります。このような任務は人生初体験ですが、隊の皆様に教えて頂きながら、読者の皆様に愛される記事を目指しますので、応援よろしくお願いします。　佐藤正則

◆有志のメンバーが集まり早1年。メンバーで意見交換などを何度も重ねながら、無事創刊準備号が発行となり大変嬉しく感じております。今後は、読んで下さる皆様に満足頂ける情報をお届けできるよう頑張りたいと思います。年4回発行ですのでお楽しみに！　安藤茉美

◆私達は東照宮の門前町、お宮町の現在・過去・未来、その時々の目撃者としてそれぞれに照明を当て掘り下げ記録し次の世代へと引き継ぐ事、そして「安全安心」「住んでよし　訪れてよしの街」お宮町の街づくりに広く関わりを持ち皆様と共に活動して参りたいと考えています。　編集長　千葉富士男

SPECIAL THANKS
ご協賛へ感謝を込めて

アエル株式会社 様

仙台市青葉区中央1丁目3－1
TEL：022-723-8000

この情報誌は、地域の情報発信と共有を通じ、地域活性化につなげることを目的としたフリーペーパーです。この趣旨に賛同いただき、より多くの企業や団体、個人の皆様がご協賛を通じて事業を支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

編集局からのお願い

お宮町の昔の写真、逸話など、この街の情報を募集いたします。
右の連絡先まで情報をお寄せ下さいませ。
封書またはメールにて募集

お！宮町地域情報編集局
Tel: 022-225-7211㈹　Emai: ohmiyamachi@gmail.com
〒980-8701
仙台市青葉区上杉1-5-1 青葉区まちづくり推進課内

編集メンバー

主筆／海老一朗　　編集長／千葉富士男
編集委員／阿部卓弥、安藤耕平、安藤茉美、伊勢みゆき、加藤久枝、加納実、菅野成寛、がんじー、菊池ゆう子、木村くみ、佐藤正則、佐藤康子、佐藤靖、永田良治、南部正人、針生一平、針生英一、藤本保之、松本匠充、吉田まとみ（50音順）
歴史顧問／伊勢民夫　　アドバイザー／内海睦夫
協力／東北工業大学　ライフデザイン学部

印刷　ハリウコミュニケーションズ㈱